

2022.07.21. 木曜礼拝「逆境と苦難の目的」

エレミヤ書 14・15 章

JD ファラグ牧師

私たちはエレミヤ書を読み進めています。今夜来て下さり嬉しいです。先週、13章を終えました。14章から2章取り上げます。一つになっているような章です。この2つの章には、最も強力な深い原則が織り込まれています。沢山ありますが、逆境と苦難の目的の一つに関する事です。つまり、「なぜ神はしばしば私たちの人生に逆境や苦難を許されるのか」ということです。これは決して網羅的な学びではありません。主がここで私たちに見せたい目的の一つがあると思います。それは、主が私たちをご自分に引き戻して下さることです。なぜなら、私たちはみな、主から離れてしまう傾向があるからです。それが、神が預言者エレミヤを通して、ここで述べておられることです。ダビデが詩編 119 編で書いていることを考えます。ダビデは同じことを、別の言い方で2回言うのです。詩編 119 編 67 節でこう言っています。基本的に、「神が私を苦しめられたことは、良いことでした。」と。

苦難を神に感謝しているようなのです。なぜなら、その苦難がなければ、自分は道に迷っていたとダビデは分かっているからです。同じ 119 編の 73 節で…ちなみに、聖書の中で最も長い詩編、最も長い章です。ダビデはまた同じことを別の言い方で言っています。

「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。」

「神よ、私を苦しめられたことを感謝します。なぜなら、あなたが私を苦しめられなければ、私はあなたの御言葉に耳を傾けず、御言葉を守らなかったでしょうから。」

繰り返しますが、今夜私たちの前にある御言葉は、神が逆境と苦難を許される理由の、数あるうちの一つです。準備はいいですか？ では行きましょう。1 節。

#### エレミヤ 14

1 日照りのことについて、エレミヤにあった主のことば。

2 「ユダは喪に服し、その門は打ちしおれ、地に伏して嘆き悲しみ、エルサレムは哀れな叫びをあげる。

3 高貴な人は、召使に水を汲みに行かせるが、彼らが水溜めのところに来ても、水は見つからず、空の器のままで帰る。彼らは恥を見、辱められて、頭をおおう。

「直視できない」とでも言うように。

4 地には秋の大雨が降らず、地面は割れて、農夫たちは恥を見、頭をおおう。

5 野の雌鹿さえ、子を産んでも捨てる。若草がないからだ。

6 野ろばは裸の丘に立ち、ジャッカルのようにあえぎ、目も衰え果てる。青草がないからだ。」

素晴らしいスタートを切りましたね？ これは、神がどんな手段を使ってもなさるということです。神は日照り、苦難を許されます。当時の農業社会では、これは生きるか死ぬかの問題だったのです。雨が降らなければ、作物は収穫できません。作物がなければ、食べ物はありません。そして、食べ物がなければ、それは餓死を意味します。これは生死にかかわる問題でした。その理由についてお話ししましょう。神が彼らの注意を引きたいと思われたからです。それは私の注意を引くでしょう。逆境に立たされたとき、私たちは大きな過ちを犯すと思うのです。苦難のとき、私たちは立ち止まって考え、主に問うことをしないのです。「主よ、あなたは私に何を見せたいのですか？ あなたは私の注意を引きました。ここで何を見せたいのですか？ この日照りを許されたのには、何か理由があるはずですが、何か私に見せたいことがあられるはずですが。というのも、これまでは私の注意を引くことが出来なかったからです。こうなったの

は、私の注意を引くために、あなたはこれを許可しなければならなかったのです。あなたは私の注意を引かれました。」

「よろしい。わたしたちは話す必要があります。少し話があります。」7節。

#### エレミヤ 14

7 「私たちの咎が、私たちに不利な証言をしても、主よ、あなたの御名のためにことをなしてください。

...

これはエレミヤが懇願しているところであり、これからエレミヤがすることを見ることになります。

…まことに私たちの背信は大きく、私たちはあなたの御前で罪の中にいます。

8 イスラエルの望みである方、苦難の時の救い主よ。どうしてあなたは、この地にいる寄留者や、一晩だけ立ち寄る旅人のようにされるのですか。

9 なぜ、あなたは驚いているだけの人や、人を救えない勇士のようにされるのですか。主よ。あなたは私たちのただ中におられ、私たちはあなたの御名をもって呼ばれているのです。私たちを置き去りにしないで下さい。

これは心からの訴えなのです。心からの懇願。「おお、お願いです。おお、神よ、そうです、私たちはあなたに対し、大いに罪を犯しました。そうです、私たちの背信は多いのです。そうです、私たちの咎は私たちに対して証言しています。しかし、あなたの御名のために…」このことをこれから見ていきます。エレミヤは、神の善意に基づいて、この心からの嘆願と訴えを行なっているのです。そして、神に「私たちを憐れんでください」と懇願しているのです。

「私たちを離さないでください。」「私たちを見捨てないでください。」と。そんな風を感じるがありますよね？ あなたが苦難を通っている時、「神よ、どこにおられるのですか？」と。「あなたがここにおられるように感じません。私の祈りは、天井で跳ね返ってくるようです。あなたはとても遠くにいます。」「わたしは遠く離れてはいない。わたしはまだ、あなたのただ中にいます。あなたは今も、わたしの名によって呼ばれている。わたしは今も良い神だ。それがどんなに酷いものであっても、わたしが良い神であることを決して変えることはできない。」10節。

10 この民について、主はこう言われる。「このように、彼らはさまようことを愛し、その足を制することもしない。そのため、主は彼らを受け入れず、今、彼らの咎を覚えて、その罪を罰する。

11 主は私に言われた。「この民のために幸いを祈ってはならない。

12 彼らが断食しても、わたしは彼らの叫びを聞かない。全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げても、わたしはそれを受け入れない。かえって、剣と飢饉と疫病で、彼らを絶ち滅ぼす。

ここまでどうですか？ 聞き覚えがありますよね？ これは以前にも見ましたが、これは前回読んだときと少し違うのです。これが理由です。神はこう仰います。

「もし彼らの叫びの声に耳を傾け、彼らの祈りに答え、捧げ物を受け入れ、飢饉を終わらせるなら、彼らは偶像崇拜の罪を続けるだけだ。」神がこうすることを望んでおられるとは、決して考えないでください。神はこうするしか選択肢がないのです。ネタバレになりますが、それは上手くいくのです。偶像崇拜に関しては、彼らは教訓を学ぶでしょう。しかし、彼らが教訓を学ぶためには、これが必要なのです。神は、剣や飢饉や疫病といった苦難の炉の中で、彼らを精錬し、清め、この教訓を教えなければならないのです13節。以前にもお話ししましたが、英語でのこの3語「Ah, Lord God!/ああ、主なる神よ！」は、エレミヤがここでやっていること、ここで言っていること、ここで主に懇願していることの激しさを表現す

るには、到底及ばないのです。それは、苦悩です。痛々しく、魂の苦悩、「おお、神、主よ...！」そしてエレミヤはこう言います。これは興味深いです。

**13 私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧ください。預言者たちは、『あなたがたは剣を見ず、飢饉もあなたがたに起こらない。かえって、わたしはこの場所で、まことの平安をあなたがたに与える』と人々にしているではありませんか。」**

一体なぜ、エレミヤはこれを主に向かって言ったのでしょうか？　これが私の考えです。「主よ、それは彼らのせいばかりではありません。ああ、主なる神よ...彼らはあなたの御名によって、これらの預言者から教えられていたのです。」「まさか、飢饉なんてこないよ。剣なんてこない。すべて大丈夫。」平安がないのに、「平安、平安」と言うのです。そして問題は、これからエレミヤに対する神の応答で見るように、彼らはそうすることを好んでいたのです。実際に、この偽預言者たちは、聞こえの良いことだけを語っていたのです。「私たちはあなたの教会に集まり、あなたの建築資金に寄付します。あなたのソーシャルメディアを登録します。あなたは私たちに耳に心地よいことだけを語っています。」知るべきなのは、荒野の孤独な声、エレミヤがここで登場します。お先真っ暗な説教者。「そんな、まさか！そんなこと起こらないよ。」ここでエレミヤは、預言者として、主の御名によって預言しているのです。涙の預言者です。「いいえ、それは偽りです。裁きは来ます。飢饉は来ます。剣は来ます。平安はありません。」

エレミヤがしていることが分かりますね？　エレミヤは、人々のために弁明をし偽預言者たちの足元に責任を負わせようとしています。「主よ、無理もありません。当然、彼らはそう教えられたのですから。彼らはそう教えられたのです。本当に、あなたがすべきことは、人々ではなく、預言者を裁くことです。なぜなら人々は、毎週行って、偽預言者が『いいや、すべて大丈夫！』と言うのを聞いていたのです。」エレミヤは、人々のために弁明しようとしているのです。主の返答はどうでしょうか？　14節。これはよろしくありません。

**14 主は私に言われた。「あの預言者たちは、わたしの名によって偽りを預言している。わたしは彼らを遣わしたこともなく、彼らに命じたこともなく、語ったこともない。彼らは、偽りの幻と、空しい占いと、自分の心の幻想を、あなたがたに預言しているのだ。」**

**15 それゆえ、わたしの名によって預言するが、わたしが遣わしたのではない預言者たち、『剣や飢饉がこの地に起こらない』と言っているこの預言者たちについて、主はこう言う。「剣と飢饉によって、その預言者たちは滅び失せる。」**

どうですか？　これは原文にはありませんが。強調してみました。「ええ、わたしは預言者たちに対処します。そうです、エレミヤ、あなたは正しい。その預言者たちは責められるべきであり、わたしがそれに対処します。わたしが対応します。」では、人々はどうなのか？　16節に書かれています。

**16 彼らの預言を聞いた民も、飢饉と剣によってエルサレムの道端に放り出され、彼らを葬る者もない。彼らも、その妻も、息子、娘もそのようになる。わたしは、彼らの上に彼ら自身の悪を注ぎかける。**

彼らに弁解の余地はありません。「ちょっと待ってください。これは不釣り合いな気がします。なぜなら、彼らは毎週教会に行き、座って教えを聞いていましたが、メッセージはいつもふわふわとしたものだったからです。」今、思いつきました。「ふわふわとした...」しかし、彼らには選択肢があったのです。彼らはエレミヤがこっちで預言していることを知っていましたが彼らはただ聞きたくなかったのです。ですから、パウロがテモテに書いたように、聞きたいことを語ってくれる人たちに、大勢の人々が集まったのです。(Ⅱテモテ 4:3 参照) いいえ、これは彼らの責任です。これは不釣り合いなことではありません。不

公平ではありません。彼らには選択肢がありました。耳に心地よい、自分の聞きたいことを聞きに行くのか？ それとも、聞きたくないけど、聞く必要のあることを望むのか？ ええ、それは辛いことです。しかし、あなたはそれを聞く必要があるのです。それは生死に関わり、深刻なことだからです。聞きたくないのは分かっています。あんなこと誰が聞きたいでしょうか？ しかし、選ぶのは彼らです。つまり、エレミヤがいるところに行くこともできたのに、行かなかったのです。エレミヤが人々のいるところに行かなければなりませんでした。覚えていますか？ 11章と12章だったと思います。彼らがエレミヤを殺すと脅す前のことです。エレミヤが人々の所に行ったのです。人々はエレミヤのところに来ませんでした。つまり、エレミヤにはこの教会がありました。この例えをお許しくださいここに美しい教会の建物があり、とても快適な椅子があります。赤紫の、パッド付き、厚手のパッド付き。来るべきなのに... 誰も来ませんでした。人々はどこにいるのか？ ああ、この通りの向こうの教会にいます。なぜなら、その人は、人々が聞く必要のあることを教えないからです。それで、エレミヤはどうするのか？ 神はこう仰います。「聞きなさい。人々はあなたのもとには来ません。素敵なお椅子はあるが、しかし、あなたが人々のもとへ行く必要がある。」そこでエレミヤは、人々が大勢集まる、町の門のところへ行きます。エレミヤは宣告し、預言し始めるのです。人々はそばを通りながら、エレミヤを見て、嘲り、おそらく唾を吐いたでしょう。「エレミヤ、ここで何をしているんだ？」「あなたがたが私の教会に来ないから、あなたがたの所に来たんだ。神がそうおっしゃったから。」「こんなこと聞きたくない。」「ええ、辛いだろうが、聞かなければならない。あなたがいる場所に、私がいるから。私が語ることがあなたの耳に入る。」ですから、彼らは実際に、言い訳はできないのです。なぜなら、理解しなければならぬのは、皆がエレミヤのことを知っていたからです。「まあ、そんな教会があることも、そんな預言者がいることも、そんな預言があることも知りませんでした。もし知っていたら、きっと行っていただいでしょう。」いいえ、あなたは行きませんよ。惜しい。全員が、エレミヤが誰なのか知っていました。「エレミヤは、あの預言者だ。お先真っ暗な、裁きが来ると言っている。結構です。」17節。私は願っていますが、私がそうしなければならないのは分かっていますが、神の愛というレンズ、神の正しい裁きというレンズを通して、これから読むものを見てもらいたいと願います。

17 あなたは彼らに、このことばを言え。『私の目は、夜も昼も涙を流して止まることのないように。おとめである娘、私の民の打たれた傷は大きく、それは癒しがたい。ひどい打ち傷。』

18 野に出ると、見よ、剣で刺殺された者たち。町に入ると、見よ、飢えて病む者たち。まことに、預言者も祭司も、地を行き巡って、仕事に精を出し、何も知らない。』

そこで、エレミヤは19節から、主にいくつか問いかけます。

19 「あなたはユダを全く退けられたのですか。あなたはシオンを嫌われたのですか。なぜ、あなたは私たちを打ち、癒してくださらないのですか。私たちが平安を待ち望んでも、幸いはなく、癒しの時を待ち望んでも、ご覧ください。恐怖しかありません。

20 主よ、私たちは自分たちの悪と、先祖の咎をよく知っています。本当に私たちは、あなたの御前で罪の中にあります。

「私たちはそれを認識しています。」

21 御名のために、私たちが退けないでください。(ここで再び出てきました) あなたの栄光の御座を辱めないでください。私たちとあなたの契約を覚えていて、それを破らないでください。

「覚えていて…」とあなたが読むときはいつも、これは神が忘れられたわけではありません。もっとこういう感じです。

「神よ、あなたが私たちにとても誠実で、とても憐み深かったあの頃を思い出してください。神よ、あなたが過去になさったことを覚えておられますか？ 私たちに忠実であられたことを思い出してください。

## 22 国々の空しい神々の中に、大雨を降らせるものがあるのでしょうか。…

おお、興味深いです。バアルバアルは雨の神とされていました。このことにユーモアがあることをお許してください。神はこう仰っているようです。

「あなたはバアルが雨の神だと思っているのか？ バアルが雨を備えてくれると？ 今に見ていなさい。」ここで、日照りがやって来ます。今のは全然ロコっぽくありません…。やってみたんですけど。ご好意の笑いをありがとうございます。嬉しいです。神はエジプトにも同じことをなさいました。その災いのひとつひとつが直接的なもので…何と言おうとしたんでしょうか…それは、エジプト人が崇拝していた神々に対する直接的な戒めだったのです。エジプト人はナイル川を崇拝していました。

「あなたはナイル川を崇拝するのか？ 見ていなさい。」彼らが崇拝していたのは…それは恐ろしいもので… Frogs/カエル、Frag/ファラグではありません。Frogs/カエル。

「あなたはカエルが好きなのか？ ではどうぞ。」彼らには 3000 以上の神々がいたそうで、そのうちの 1 つは牛でした。アロンは金の子牛のアイデアをどこで得たのか？ 完全にエジプトのものでした。

「弟のモーセが帰って来ないようなので、私たちには神が必要だ。弟が長い間行ってしまったままで、もう私たちには神がいません。」「アロン、私たちには神が必要です。」アロンは「まあ、分かりました。」と。アロンはすべての金を集め、火の中に入れ、金の子牛を造り、民は崇拝し始めます。(出エジプト 32:1 - 4)

信じられないでしょうが、それは御言葉の中にあり、記録され、実際に起こったのです。あらゆる意味で信じがたいことです。金の子牛が出来上がり、民が最もおぞましい方法で拜んでおり…生々しくしたくはないのですが、アロンが大胆にも、民にこう言ったのです。

「見よ、これがあなたがたをエジプトから救い出した神だ。」そこで、モーセが帰って来ます。おーっと…繰り返しますが、信じられません。記述されていなければ信じないでしょうが、モーセが兄のアロンに「いったいあなたは何をしたんだ？」と問うと、その返答をご存じですか？「えっと、…弟よ。金を火の中に入れたら、ボンッと金の子牛が出て来たんだ。それで、民は皆それを拝みだしたんだ。」という感じですか。本当ですか？ それって、本当ですか？ 民は子牛を崇拝していたのです。民はこれらの神々すべてを崇拝していたのです。ユダは雨の神である、バアルを崇拝しました。神はこんな感じです。

「分かりました。ここに問題があると思いますよ。わたしはあなたがたに、誰が本物の神か見せなければなりません。というのも、どうやらこの 2 つを「混ぜこぜ」にしているようなのです。」

これも地元ネタでした。— (笑) — 私がここへ引っ越してきた時に初めて覚えたものです。ここではっきりさせておきたいのは、バアルは偽りの神ということ。これは偽りの礼拝で、偶像礼拝です。そして、エレミヤがこの 22 節で言うことは、とても適切なことだと思うのです。

## 22 国々の空しい神々の中に、大雨を降らせる者がいるのでしょうか。…

エリヤに聞いてください。第一列王記 18 章です。民は、自分を切りつけ、叫び、彼らは大声で、雨を降らせて、火を下させ、生け贄を焼き尽くすようにとバアルに叫ぶのです。結局のところ、主が天候の神であり、雨の神であり、火の神であり、雷の神なのです。

「あなたの神はどこにいるのか？」エリヤは楽しんでいるのです。私もその記述が大好きです。

「もしかしたら、もう少し大声で叫ばないといけないのでは。バアルはトイレに入っているのかもしれない。」それが実際、原語での意味合いで、「バアルは仕事をしているんだろう、だからあなた方に答えないのだ。昼寝をしているのかもしれない、休暇中なのかもしれない。それは問題ですね。なぜバアルがあなたに答えないのか説明がつくでしょう。」

最後に、もう十分とばかりに、エリヤはこう言いました。「邪魔だ、もっと水を注げ。」そしてエリヤは言います。「よし、神よ。あなたが神です。」「わたしがあなたがたをエジプトから救い出した神だ。」

この章は、エレミヤが再び神の御名のもとに民のために執り成しをすることで終わっています。つまり、「神よ、これを私たちのためではなく、彼らのためでもなく、あなたの名誉のためになさってください。」これはモーセが民のために執り成したのと似ていませんか。もし、神がモーセに、最初からやり直し、民を追い出すと申し出て、「よし今、モーセ、あなたを使おう。」と言われたら、私ならすぐにでもその取引に応じますね。神は、モーセが断ることをすでに知っておられたからこそ、この申し出をしたのです。「神よ、それはいけません、噂になりますから。あなたは評判になり、周囲の人々はみな、あなたが神としてあなたの民にしたことはこれだと聞くでしょう。そんなことなさないでください、主よ。」

(出エジプト 32:11 - 12 参照)

神はモーセがそう言うことをご存じでした。これがここでエレミヤが行っていることで、民に代わって執り成しているのです。さて、この執り成し、懇願に対して、神はどう応答なさるのか？ 15章1節。

## エレミヤ 15

1 主は私に言われた。「たとえモーセとサムエルがわたしの前に立っても、…

サムエルが民のために執り成しても、モーセが民のために執り成しても…。神の民のために執り成しているエレミヤに、主はこう言っておられます。

…「たとえモーセとサムエルが（今あなたが執り成しているように）わたしの前に立っても、わたしの心はこの民に向かわない。この民をわたしの前から追い出し、立ち去らせよ。」

2 彼らがあなたに『どこへ去ろうか』と言うなら、あなたは彼らに言え。『主はこう言われる。死に定められた者は死に、剣に定められた者は剣に、飢饉に定められた者は飢饉に、捕囚に定められた者は捕囚に。』

そこに行くのです。つまり、ある者は剣か飢えで死に、生き残った者はバビロンに捕らわれるということです。3節。

3 わたしは四種類のもので彼らを罰する 一主のことば一。切り殺すための剣、引きずるための犬、食い尽くして滅ぼすための空の鳥と地の獣である。

4 わたしは彼らを、地のすべての王国にとって、おののきものにする。ユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムで行ったことのためである。

おお…マナセは何をしたのか？ ああ、マナセは言いようのない偶像崇拝を導入しました。何が本当に悲しいのかと言うと、マナセの父、ヒゼキヤは、ユダ全体の中で9人しかいない良い王の一人だったのです。北イスラエルには一人もいませんでした。ヒゼキヤはマナセの父であり、神の御目に正しいことを行った良い王の一人でした。そして、ヒゼキヤの息子マナセは、邪悪でした。彼は偶像礼拝を取り入れました。それがマナセがエルサレムで行ったことです。5節。

5 エルサレムよ、いったい、だれがおまえを深くあわれむだろう。だれがおまえのために嘆くだろう。だ

れが立ち寄って、おまえの安否を尋ねるだろう。

6 おまえはわたしを捨てた。一主のことば—おまえはわたしから退いて行ったのだ。わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを滅ぼす。わたしはあわれむのに疲れた。

そして7節。特にこれに注目してください。

7 わたしはこの地の町囲みの中で、“熊手”で彼らを追い散らし、彼らに子を失わせ、わたしの民を滅ぼす。彼らはその生き方から立ち返らなかった。

このラテン語の fan/熊手(箕)という単語は、英語の tribulation/患難の語源です。さて、すぐに意味が分かると思います。神がここで仰っているのは、「わたしは彼らをふるいにかけてなければならない。わたしは彼らを苦しめ、彼らをこの選別する箕で、ふるいにかけてなければならない。」試練や苦難によって、稲穀と麦が分けられるという意味が込められています。罪びとから邪悪なもの、悪、罪を。それが選別する箕です。「わたしはそうしなければならない。それが唯一の方法です。他の方法はありません。彼らは、自分の道から戻って来なかったからです。彼らは自分の道を行きました。それは間違った道でした。だからわたしは彼らを戻さなければなりません。これが唯一の道です。それはこの患難、選別する箕を通る道でなければなりません。」8節。

8 わたしはそのやもめの数を海の砂よりも多くする。わたしは若い男の母親に対し、真昼に荒らす者を送って、突然、彼女の上に苦痛と恐怖を臨ませる。

これは辛いですね… 9節。

9 七人の子を産んだ女は打ちしおれ、その域はあえぐ。彼女の太陽は、まだ昼の打ちに沈み、彼女は恥を見て、屈辱を受ける。わたしは彼らの残りの物を、彼らの敵の前で剣に渡す。一主のことば—

10節での、エレミヤの言葉を聞いてください。

10 ああ、悲しいことだ。私の母が私を産んだので、私は全地にとって争いの相手、また口論する者となっている。私は貸したことも、借りたこともないのに、皆が私を呪っている。

ここでエレミヤが語っていることがわかりますね？「私は生まれて来なければ良かったのに」本当に落ち込んで、打ちのめされて、壊れてしまう。それを経験したことがありますか？ あなたは良い仲間恵まれていますよ。他にもたくさん思い浮かびます。例えばヨブ。あまりに酷く、辛く、痛々しいものでした。絶望に支配され、人生にさえも絶望していました。使徒パウロも、人生に絶望しました。そのような境地に至り、ただ泣き叫び、神に向かって「私は生まれてこないほうがよかった」と言うのです。「母が私を産まなければ良かったのに。」それはかなりひどいですね。そういう経験はありますか？ 大丈夫です。逆境や苦悩、困難や痛み、苦しみ、試練はとても辛く、強烈なものです。オズワルド・チェンバースが「ヨブ記」の解説で述べた言葉を思い浮かべます。「神は絶望した人間を決して責められない。」神はエレミヤが今言ったことを叱責なさいません。どうか、どんなことがあっても、エレミヤが自分を哀れに思っているなんて思わないでください。そうではないからです。エレミヤがここでやっていることは、ただ主に自分の心を注いでいるのです。主はすでにエレミヤの心をご存じです。主はエレミヤの絶望を知っておられます。そして、ここでエレミヤは…ああ、ただただエレミヤに同情します。その痛み、エレミヤは基本的に、「私はこの人たちに何もしていない」と言っています。「私は彼らを騙したことはない。でも、彼らは私を呪う。私はたった一人です。」エレミヤはその孤高の声なのです。こんな感じです。

「主よ、私はこんなにも非難を受けています。」エレミヤにとっては、「私は全世界の争いの種となっています。」と。それは絶望です。「神よ、私は生まれて来なかった方が良かったのです。本当は死にたいので

す。」神にそう伝えてもいいんです。神はすでに知っておられます、神は全知ですよ？ 感情を激しくぶつけ、心の内を吐き出しているのです。生々しいです。さて、それに対して主はここで何をされるのでしょうか。エレミヤを叱責されますか？

「おい！エレミヤ！ 強くなりなさい！ 元気を出しなさい、弱虫ちゃん。」私はそれが大嫌いです。さて、これが主の返答です。11 節。

**11 主は言われた。「必ずわたしはあなたを解き放って、幸せにする。必ずわたしは、わざわいの時、苦難の時に、敵があなたにとりなしを頼むようにする。」**

おお...主よ、感謝します。それが必要でした。エレミヤに対する主の応答は、彼を慰め、励まし、力づけるものです。「エレミヤよ、大丈夫です。あなたが落ち込んでいるのは分かっている。生まれてこなければよかったと思うのは分かっている。誰も知り得ない深い深い苦しみを抱えていることは知っている。わたしは知っている。しかし、エレミヤよ。わたしが語ったことを覚えているか？ わたしは、あなたが母の胎内で形成される前から知っていた。あなたの人生には、わたしの使命がある。わたしはそれが困難な使命であることを知っている。孤独な人生の使命であることも。わたしはこの使命からあなたを解放したり、和らげることはしない。その代わりに、この使命の中であなたを新たにし、生き返らせます。」神はそうなさいます。12 節。

**12 人は鉄を、北からの鉄や青銅を砕くことが出来るだろうか。**

**13 わたしは、あなたの財宝、あなたの宝物を、あなたの領土のいたるところで、戦利品として、ただで引き渡す。あなたの罪のゆえに。**

**14 わたしはあなたを、あなたが知らない地で敵に仕えさせる。(バビロンのことです) わたしの怒りに火が付き、あなたがたに向かって燃えるからだ。**

ちょっと待ってください、待って。エレミヤを慰めることに戻れませんか？ わお、わお、わお...！ ここで何が起きているのでしょうか？ 主がこう言っておられます。

「エレミヤよ、わたしはあなたを憐れむ。しかし、わたしはまだユダを懲らしめ、苦しめなければならない。他に方法はない。15 節。

**15 「主よ、あなたはよくご存じです。…」**

「You know/あなたはご存じです」を強調しました。説明します。時に、あなたがとても、とても辛い試練を通る時、それを誰かに説明することは、到底できません。彼らは何も分かりません。そして、そのことを責めることはできません。説明しようとしても、無理なのです。どうにかして自分が経験していることを説明できたとしても、相手はそれを理解することができません。私はそれは、神がそう定められたのだと思います。なぜなら、主はご存じだからです。

「彼らが知る必要はない。わたしが知っている。あなたは彼らと呼ぶ必要はない。わたしを呼びなさい。わたしを呼び求めなさい。彼らを見る必要はない。わたしを見なさい。あなたは彼らに頼る必要はない。わたしに頼りなさい。わたしはこれを、どうにもできないほどに複雑にした。あなたが頼れるのはわたししかいない。」

**15...私を思い起こし、私を顧み、…**

エレミヤは忘れられてはいません。ただこう言っているのです。「主よ、思い出してください、あなたが切り抜けさせられた時のことを。」今度は要望を出し、エレミヤはこう言います。

**…迫害する者たちに、私のために復讐してください。…**



これは何も問題ありません。主は「復讐はわたしのものだ」と言われました。悲しいことに、私たちはそこで止まってしまいます。「復讐はわたしのもの。わたしは報いる。」と主は言われます。別の言葉で言えば、「自分で問題を解決してはいけない。わたしに任せなさい。復讐はわたしのものである。」そしてエレミヤはもう一度こう言います。

…あなたの御怒りを遅くして、私を取り去らないで下さい。私があなたのためにそしりを受けていることを知ってください。

「この痛みと苦しみはすべて、私の人生にかけられた使命のためなのです。」エレミヤは神を非難しているわけではありません。16節。

16 私はああなたのみことばがみつかったとき、それを食べました。そうして、ああなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ、私はああなたの名で呼ばれているからです。

わーお！ うまくいったようですね。何が変わったのですか？ エレミヤの状況は変わっていません。いいえ、変わったのは主の御言葉です。エレミヤは、神の御言葉をひとつ残らず食べ、ごちそうになったのです。

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口からでるすべてのことばで生きる」(マタイ 4:4)

私は心の底から、その時が来ると言いたい。こう言えば、私の言っている意味がわかると思います。誰も話したくない時が来ます。相手の話を聞きたくない。医師や専門家の意見は聞きたくない。偉大な医師から話を聞きたいのです。私は気にしません。人の意見は聞きたくない。神が仰ることを聞きたいのです。なぜなら、神の御言葉はいのちだからです。いのちの言葉です。

「私はここで死にかけています。もうどうしようもありません。」そこで、主は仰います。

「わたしの言葉、あなたにわたしの言葉を与える。」どういう意味が分かりますね？ あなたが誰かに言葉を伝える時、相手に自分の言葉を与えることになり、自分の言葉を守らなければなりません。神はエレミヤにご自分の言葉を与え、エレミヤはそれを食べました。「ああ、そうだ。私はもう大丈夫だ。もう大丈夫。」お伝えしたいのは、神の御言葉にすぎるしかできないほど、あまりにも酷くなる時があります。神はああなたの人生に、ああなたの状況に、神だけがお出来になるように語ってくださるでしょう。それがその御言葉になるでしょう。もしかしたら、これまでに何度も読んだことのある一節かもしれません。しかし今、それはああなたのためなのです。この御言葉は時に適って語られたのです。エレミヤが言うことを聞いて下さい。

「ああなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。私の心を生き返らせました。私を引き上げてくれました。」ここには、「私はああなたの名で呼ばれているからです」という聖なる誇りがあるようです。それが好きです。「万軍の神、主よ、…」17節。

17 私は、戯れる者がたむろする場に座ったり、喜び踊ったりしたことはありません。私はああなたの御手によって、ひとり座っていました。

これは、詩篇1篇を彷彿とさせます。

## 詩編 1

1 幸いなことよ悪しき者のはかりごとによらずに歩まず罪びとの道に立たず 嘲る者の座に着かない人。

その人は飢饉の中に植えられた木のようになるのです。そして、偶然にも飢饉が起こったのです。なんとタイミングがいいのでしょうか。たとえ周りの木が枯れても、その木は栄えているようなものです。18節。

18 なぜ私の痛みはいつまでも続き、私の打ち傷は治らず、癒えようもないのでしょうか。ああなたは私にと

って…

ここを覚えておいてください。

**…あなたは私にとって、欺く小川の流れ、当てにならない水のようになられるのですか。」**

おお、エレミヤ…エレミヤが主に求めていることが分かりますね？「主よ、あなたは私を失望させられませんかよ？ 私は、あなたが私の人生に与えられた召しに耳を傾けました。私は、あなたが私の人生に与えられた召しのために、苦しんでいます。私はこんなにも苦しみ、これは絶え間ない痛みなのです。終わりが見えません。主よ、あなたは私を失望させられることはありませんよ？」

ちょっと待ってよ、エレミヤ。少し前まで上手くいっていたじゃないですか。何があったの？ これは私たちにもよくあることです。エレミヤは、彼の前の多くの人々や後の多くの人々と同じように、信仰の危機に陥っているのです。神がこのことから救い出してくれるのかどうか、疑問を抱いているのです。聞いてください。あなたが本当に苦しんでいる時…バプテスマのヨハネを思い浮かべます。誰が知っていましたか？ ヨハネがこの牢獄の中に座ると。ヨハネは確かにこう思ったでしょう。まさか、これはバプテスマのヨハネですよ。

「イエスはここから私を救い出してくださいと確信している。しかし、日々は過ぎ、イエスは私をそこから救い出されない。イエスは私を失望させた。」

そこでヨハネは何をしますか？ ヨハネは人を送って、イエスに尋ねさせました。(マタイ 11:2-3 参照)

なぜなら、今ヨハネは疑いに満ちているからです。「おいでになるはずの方はあなたですか？ それとも別の方を待つべきですか？ なぜなら、私は確かに、そんなに長くここにいないだろうと完全に期待していたのです。あなたは私の期待を裏切ったようです。」今は、疑問が湧いているのです。繰り返しますが、どうかエレミヤをあまり責めないでください。多くの神の男性、神に力強く用いられる女性には、絶望から疑いに陥る瞬間があるのです。それに対して、神はなんと仰るのか？ 19節。

**19 それで、主はこう言われた。(このキーワードに注目してください) 「もし、あなたが帰って来るなら、わたしはあなたを帰らせ、わたしの前に立たせる。もし、(2回目の”もし”です) あなたが、卑しいことではなく、高貴なことを語るなら、(ここを覚えておいてください) あなたはわたしの口のようにになる。彼らがあなたのところに帰ることがあっても、あなたは彼らのところに帰ってはならない。**

待って、えっ？ 神はエレミヤに何を言われているのか？「エレミヤよ、引っ張る力が強いことは分かっている。引っ張られる力が強く、あなたがずっと苦しんでいることは知っている。戻って来なさい。もしあなたがわたしのもとに戻るなら…彼らの道に行ってはならない。彼らがあなたの道に来る必要がある。もしあなたが帰って来るなら、わたしはあなたを帰らせる。わたしに近づきなさい。わたしはあなたに近づこう。」(ヤコブ 4:8 参照)

また、疑いの時には、この信念と一緒にやってくるのです。それは間違いなのですが、しかし私たちはなぜか、神が自分から距離を置いておられると考えるのです。

「いいえ、わたしはずっとここにいます。疑いの中でわたしから距離を置いたのはあなたの方です。あなたは戻って来る必要があります。」この、「あなたが卑しいことではなく、高貴なことを語るなら」とはどういうことでしょうか。エレミヤにこう仰っているのです。「もしあなたがこの苦難の卑しさから、良いものを取り出すなら、この苦難のい卑しさの中には、益がある。この苦しみの杯、果てしない痛みの卑しさ、もしあなたが、わたしがいつも苦難のゆえに働かせる益を、その中から取り出すなら、あなたはわ

たしの口のようになるであろう。」

エレミヤは引っ張る彼らを…、彼らを見て、「神よ、なぜ彼らと呼ばれないのですか？なぜ私なのですか？これは孤独な使命です。これは本当に辛いです。そして、その大変さを誰も知る由もないのです。」

主は言われます。「あなたはわたしのもとに戻って来なさい。そして、この苦難から良いものを得る必要があります。」叱責ではなく、もう一度、回復させるためです。エレミヤに、戻って来るように、主に信頼するようと言われているのです。主に近づき、みことばと祈りに浸るときがあるとしたら、それは痛みの中にいるときです。20 節。

**20 この民に対して、わたしはあなたを堅固な青銅の城壁とする。彼らは、あなたと戦っても勝てない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い、あなたを助け出すからだ。—主のことば—**

**21 わたしは、あなたを悪しき者たちの手から救い出し、横暴な者たちの手から贖い出す。」**

お～、これが大好きです。私は、その章とその聖書の学びが、このように終わるのが大好きです。ここ数週間は、かなり陰悪な雰囲気です。終わっていますね。「私たちは皆、死にます！」では、祈りで締めくくきましょう、と。— (笑) — いいえ！「わたしはあなたを贖い出す。ええ、まだ戦いはあるが、彼らに勝ち目は無い。わたしがあなたを救う。わたしは悪しき者たちの手から、あなたを救い出す。わたしはあなたを贖い出す。」

繰り返しますが、これは神の御言葉です。神はお出来になりません。これは文型としては正しい英語ではないと分かっていますが、ご了承ください。神はご自分のことばを守らないことが、お出来になりません。もう一度やってみます。これは神の御言葉です。破られない約束です。神は約束され、約束を破ることはお出来になりません。

「エレミヤ、気を確かに持ちなさい。戻って来なさい。ここに来なさい、坊や。あなたを捕まえた。わたしはあなたを救い出し、贖い出すと約束した。そう思えないのは分かっている。試練が非常に激しく、痛みがずっと続いていて、もう方法がないように見えるのは分かっている。しかし、あるのです。わたしがそれを行う。わたしはあなたを解放する。」

なぜなら、エレミヤは救い出されるかを疑っているからです。

「神よ、あなたはいつも私をここまで救い出してくれました。でも、今あまりいい感じではありません...私は分かりません...」私たちがそう思う理由があります。私たちはそう思いますよね？なぜなら、分からないからです。私たちがそれを理解しようとしています。なぜなら、分からないということは、コントロールできないということであり、コントロールできないのは嫌なのです。私たちが、神が何をされているのか分からないので、無力で絶望的だと感じます。私たちが理解したいのです、そうすれば、自分がよりコントロールしやすいと感じるからです。神はこんな感じですよ。

「いいえ。わたしはあなたに知らせない。わたしは自分のしていることを知っている。あなたにはわたしが何をやっているのか分からないが、わたしを信頼しなさい。」

おお...それは「信仰」と呼ばれるものかもしれません。信仰によって、歩み、生きる。見るものによってではなく。なぜなら、私たちがそれが見えないからです。「神さま、あなたはどうか見えるのか見えません。」

あなたは見るものによって歩みたいのですか？あなたは見たいのですね。結局のところ、見ることは信じることです。実際はその反対で、信じることは見ることなのです。もしあなたが信じるなら、あなたは見るのです。「あなたはわたしを信じる必要がある。わたしはあなたを救い出す。あなたに起きていることはすべて、あなたとの約束と矛盾していることは分かっている。というのも、あなたは状況を

見ているからです。わたしを見なさい。わたしのもとに帰って来なさい。こっちへ戻って来なさい。あなたは彼らに注目し、そのことに注目している。そのことを見ている。どうりで、無理もない。戻って来なさい。」

こうやってやりますよね？（自分の目と相手の目を指差す）－（笑）－

「あなたの目を、わたしに向けなさい。あなたの目を、わたしに向けなさい。わたしはそうすると、あなたに約束する。」「ええ、でもいつですか？」「いつかはあなたに教えません。ただわたしに信頼しなさい。」

「どのようになさるのですか？」「どのようにかは、あなたに教えない。ただ、わたしを信頼しなさい。」

「...主よ、分かりました。」

つまり、本当に考えてみれば、私たちにどんな選択肢があるのでしょうか？ 実は、日曜日にもその話を少しする予定です。私たちは忍耐強く主を待たなければなりません。問題は、私たちは待つのが嫌いなことです。エレミヤは主に、「今、これをしてください」「さあ、ショーを始めましょう。」と求めているのです。「いいえ。今はまだです。わたしは自分がしていることを分かっている。わたしは必ず報い、復讐する。わたしはあなたを救い出す。しかし、わたしの時に、わたしの方法で、わたしの栄光のために、それを行う。わたしのタイミングは、常に完璧だからだ。あなたは見る。わたしがあなたの条件、あなたの予定、あなたのスケジュールでそれを行わなかったことを、あなたは喜ぶでしょう。わたしはこれを行う。わたしがこれを行う時、あなたを救い出す時、それは完璧なものになる。わたしは完璧だからです。あなたはただ待ち、わたしを信頼し、わたしに目を向け続けていなさい。

「あなたに思いが定まっている者を、あなたは全き平安のうちに守られます。」（イザヤ 26:3 参照）

最後に一つ。お立ちください。デイビットは上がって来てください。歌で締めくくりましょう。今夜ここにいらっしゃるか、オンラインで観ている方、主はあなたが経験していることを知っておられます。あまりいい感じではありません。真実を明かすなら、これは抜け出せません。神は過去に、私を救い出されましたが、今回は、これで終わりです。これまでです。今回は、もう無理です。今回は、本当に酷い。お～、ちょっと待って。神はあなたに御言葉を与えておられます。「ええ。でも、牧師さん、失礼ながら、あなたは分かっています。」ええ、私は分かります。あなたには分からないでしょう。

「でも牧師さん、失礼ながら、この状況は不可能です。」本当に？「とても辛いのです。」そうですか。

「ええ、私には、神がこれをどうなさるのか分かりません。」そうですか。ふむ...神は不可能を可能にする神です。「ええ。でもこれは、本当にめちゃくちゃです。状況は本当に酷いです。」

ええ。でも神は良いお方です。神はあなたに約束されました。あなたの状況に、最終決定権があるわけではありません。神が最終決定をされます。神はまだ終わっておられません。神が最終決定をされます。

「ええ、でも...どうしてそんなことが可能なのか分からないのです。」神の邪魔をしないようにしたらどうですか？ ところで、これは個人的な経験から言っていることなのですが、神を助けようとするのはやめてください。助けたい？ 助けないでください。なぜなら、神を助けようとするたびに、事態を悪化させるだけだからです。そうですね？ ただ...、あなたへの言葉は、「静まって、わたしが神であることを知れ」かもしれません。「ただ待っていていなさい。何もせず、わたしにさせてください。わたしがこれをする。戦いはわたしのものだ。あなたがこれと戦う必要はない。わたしがあなたの想像もつかないような方法でこれを行う。それは、あなたが今まで求めたどんなことよりも、はるかに、豊かに、超えていることでしょう。ただ、わたしを神としてください。そして、わたしがあなたに約束したことをやらせてください。わたしのやり方でやらせてください。あなたはただ、静まって、わたしが神であることを知りなさい。」

い。わたしがあなたを救い出します。あなたを救い出します。

天のお父さま、感謝します。私は、多くの人々が苦勞し、疲れ、傷つき、当惑していることを知っています。疑いが生じ、失望が支配しているかもしれません。

主よ、今夜、あなたの御言葉で見聞きし、食べたものが、たとえ状況が変わらなくても、私たちが変わっていることを祈ります。たとえ状況が変わらなくても、私たちが変わることができるのです。あなたは私たちの心や見方を変えられるので、無理をするのをやめ、疑うのをやめ、あなたがすると言われたことは必ずしてくださいと信頼し始めるでしょう。あなたは私たちを見守ってくださいます。

主よ、あなたは解放される方であり、私たちの贖い主であり、救い主です。エレミヤに約束されたように、あなたは救い、解放し、贖われます。

おお、主よ、感謝します。イエスさま、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7